滝山城跡（八王子市）　　続　き

さて、この先に中の丸跡と本丸跡に架かる木橋がある/右手は中の丸跡への枡形虎口跡

これが中の丸跡への枡形虎口跡

前方右手の建物は中の丸跡に建つトイレ

中の丸跡から振り返って見た枡形虎口跡

都立　滝山公園
滝山城縄張図
設置年月：平成25年3月
◆解説
滝山城は、相模小田原城に本拠を置く戦国大名北条氏第４代当主氏政の弟氏照の居城である。縄張りの見事さから、全国有数の戦国時代の城郭として評価されている。
北条氏照は、これまで「大石系図」などにより武蔵守護代の系譜を引く大石定久の養子として滝山城に入ったとされていた。しかし、近年の研究では、氏照は幼名を藤菊丸と称し、浄福寺城（市内下恩方町）を拠点に由井領を支配していた大石道俊（定久か）の子、大石綱周の養子になったと考えられている。
滝山城の築城年代や氏照の入城時期は不明な点があるが、永禄10年（1567）までには滝山城を居城としていたとみられる。
永禄12年（1569）10月、甲斐の武田信玄が小田原城攻略の途中、その道筋にあった滝山城を包囲した。拝島大日堂の森（昭島市）に陣取った武田勢は周辺の村々を焼き払い、滝山城を孤城にしたと伝えられている。このとき氏照は、古甲州道沿いの城下「宿三口」へ兵を繰り出し戦ったと、越後の上杉謙信に自らの書状で伝えている。
その後、天正10年（1582）ころから新城の築城工事が始められ、同15年までには滝山城から八王子城（市内元八王子町）へと移っていったのである。
◆八王子市の城館跡
案内パンフレット

滝山公園

◆解説

滝山城は、相模小田原城に本拠を置く戦国大名北条氏第４代当主氏政の弟氏照の居城である。縄張りの見事さから、全国有数の戦国時代の城郭として評価されている。

北条氏照は、これまで「大石系図」などにより武蔵守護代の系譜を引く大石定久の養子として滝山城に入ったとされていた。しかし、近年の研究では、氏照は幼名を藤菊丸と称し、浄福寺城（市内下恩方町）を拠点に由井領を支配していた大石道俊（定久か）の子、大石綱周の養子になったと考えられている。

滝山城の築城年代や氏照の入城時期は不明な点があるが、永禄10年（1567）までには滝山城を居城としていたとみられる。

永禄12年（1569）10月、甲斐の武田信玄が小田原城攻略の途中、その道筋にあった滝山城を包囲した。拝島大日堂の森（昭島市）に陣取った武田勢は周辺の村々を焼き払い、滝山城を裸城にしたと伝えられている。このとき氏照は、古甲州道沿いの城下「宿三口（しゅくみくち）」へ兵を繰り出し戦ったと、越後の上杉謙信に自らの書状で伝えている。

その後、天正10年（1582）ごろから新城の築城工事が始められ、同15年までには滝山城から八王子城（市内元八王子町）へと移っていったのである。

八王子市の城館跡
秋川
檜原村
戸吹城跡
(根小屋城跡)
滝山街道
高月城跡
滝山城跡
国道16号
多摩川
川口川
浄福寺城跡
伝由井氏館
小田野城跡
北浅川
国道20号
浅川
和田峠
とどり
出羽山
八王子城跡
廿里砦
八王子駅
小仏峠
高尾駅
片倉城跡
平山城跡
伝由木氏館
初沢城跡
(椚田城跡)
杉山峠
伝大石信濃守屋敷
南浅川
相模原市

これは中の丸跡を南側から北方向に見たところ

これは南東側から北西方向を見たところ

これは中の丸跡東側の土塁/南側から北方向に見たところ

その土塁上に登って見たところ

右手の堀跡を見たところ

これはトイレ裏（南側）の土塁を東側から西方向に見たところ

その土塁上に登って見たところ

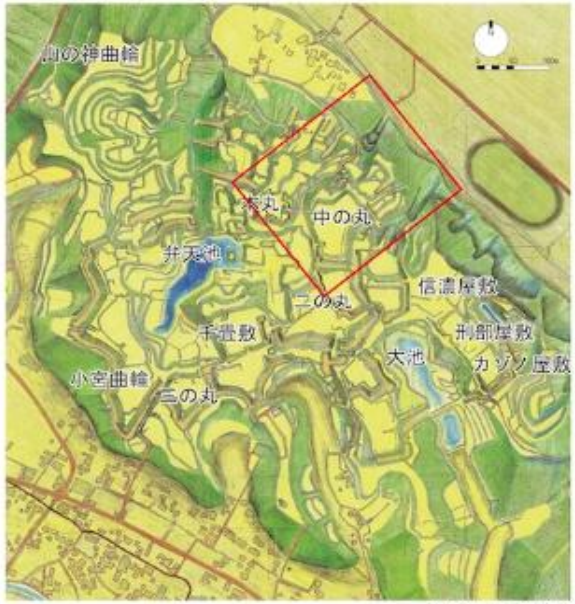
左手の堀跡を見たところ/その向こうは二の丸跡

これは中の丸跡の北側で北方向を見たところ/説明坂が立っている

中の丸

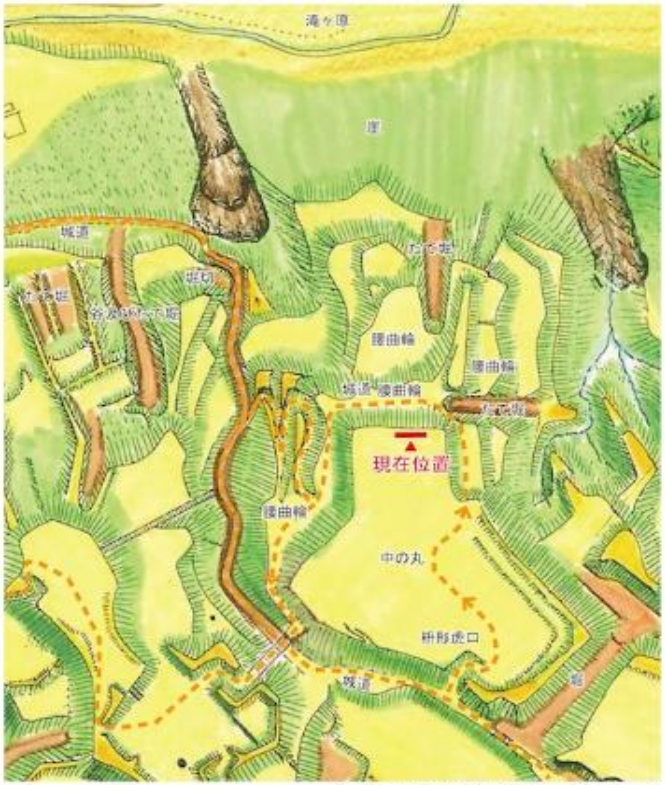
（本丸の次に重要な曲輪）

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図

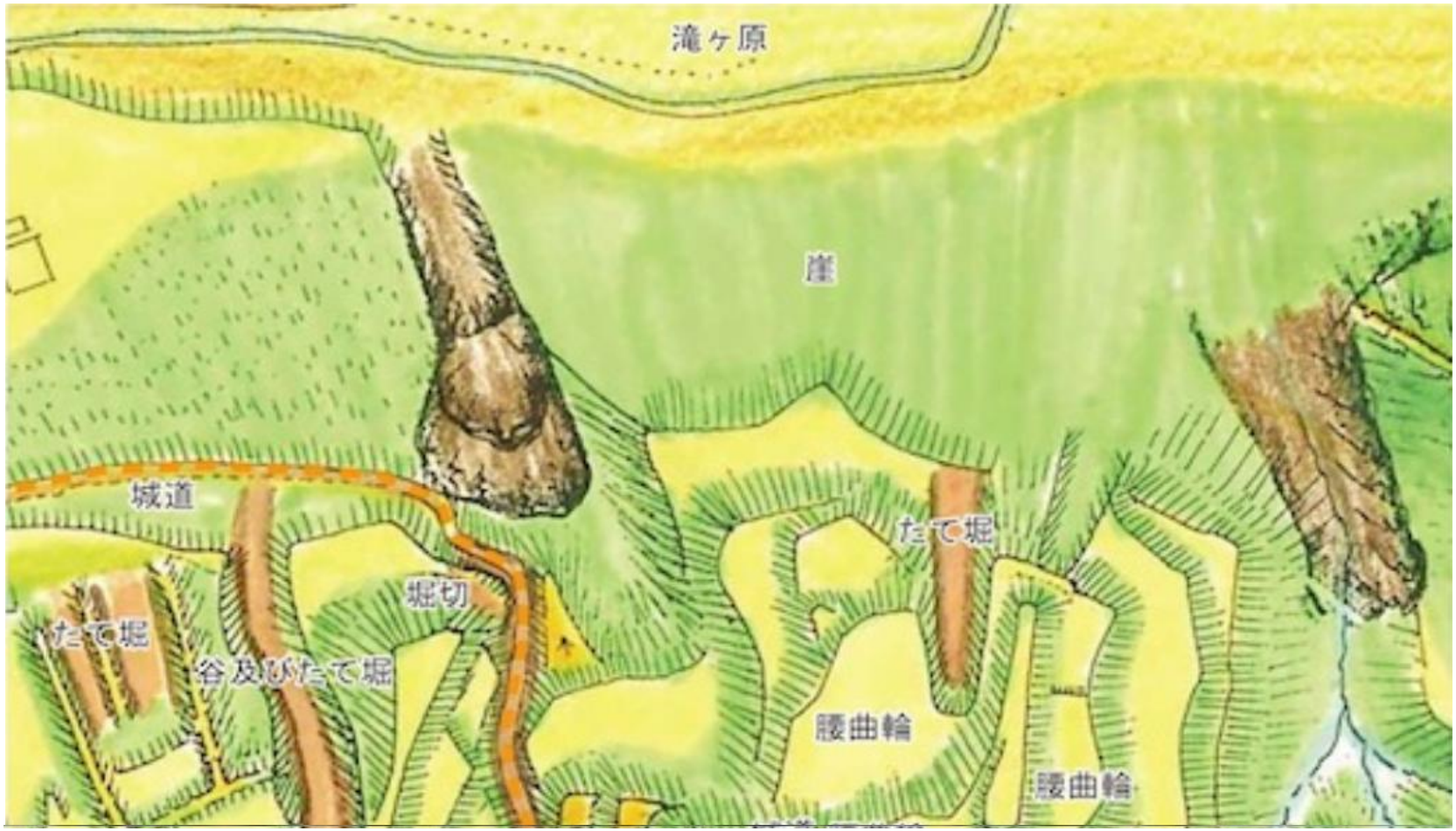


※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

「中の丸」の山腹には腰曲輪と呼ばれる平場が多摩川に向かって数多く設けられている。このことから、北側の多摩川方面に対して警戒していたと考えられる。

附近には河越道の渡河地点である「平の渡し」がある。この重要な地点を抑えるために滝山城は構築されたと考えられる。


滝ヶ原
崖
城道
たて堀
堀切
たて堀
谷及びたて堀
腰曲輪
腰曲輪

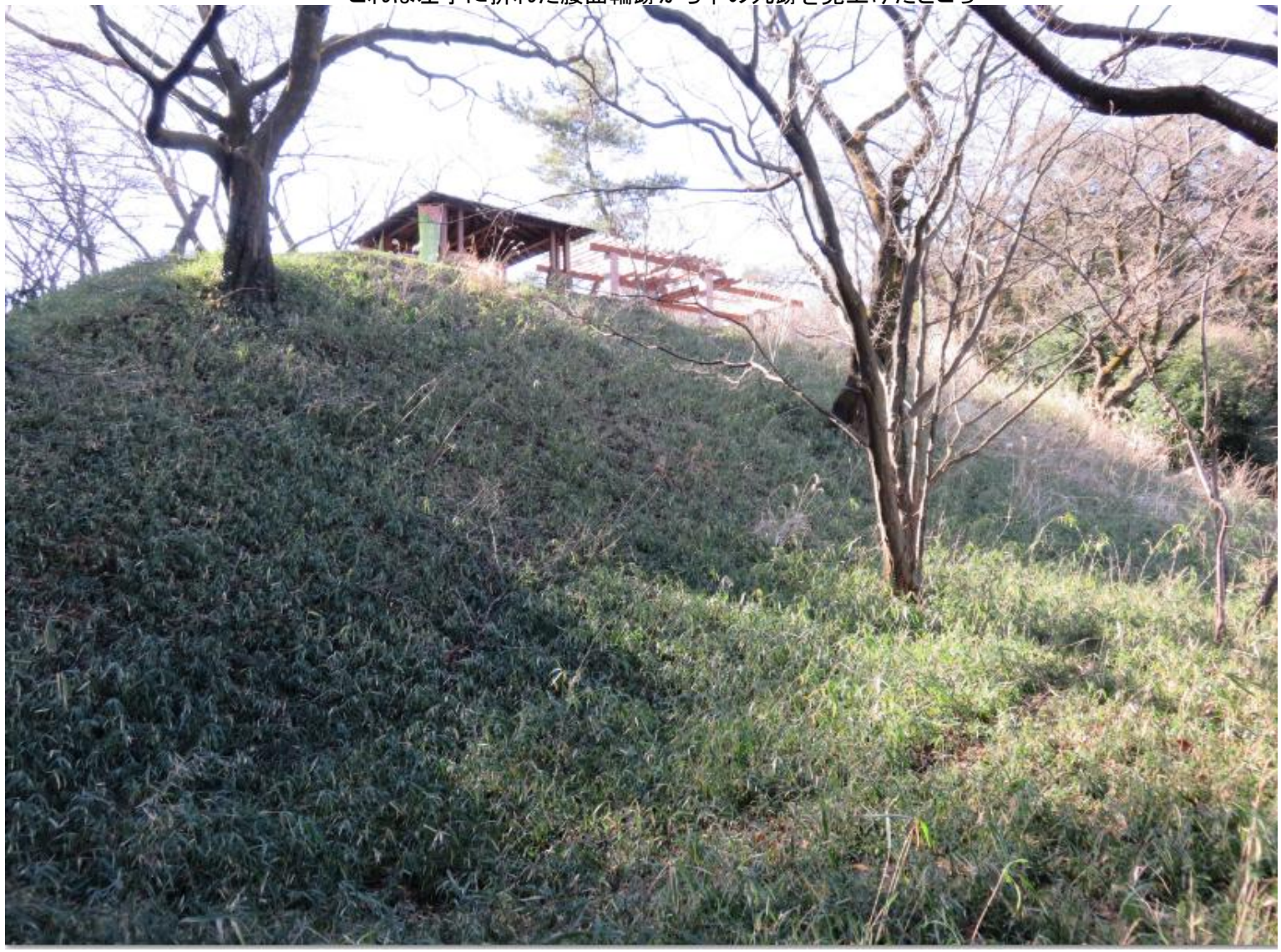
城道
腰曲輪
たて堀
現在位置
腰曲輪
中の丸
枡形虎口
城道
堀

多摩川が見える

dd

右手から腰曲輪跡に下りてみる

これは左手に折れた腰曲輪跡から中の丸跡を見上げたところ



これはその右手にある竪堀を見たところ

これは中の丸跡を北東側から南西方向に見たところ

ここは中の丸跡の北西側

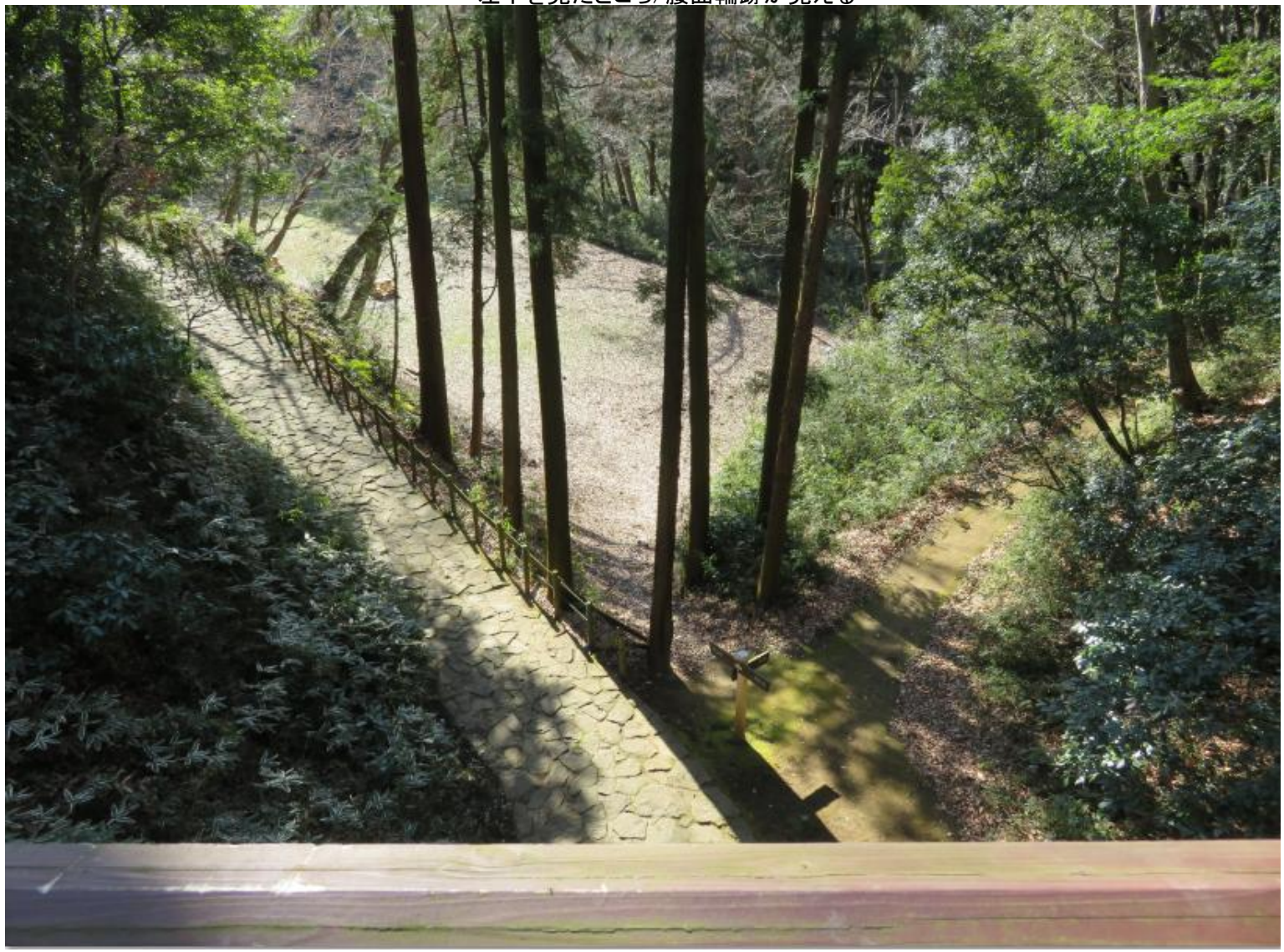
そこから北側下を見ると腰曲輪跡の平場が見える

さて、中の丸跡の西側に木橋が架かっている/この向こうに本丸跡がある

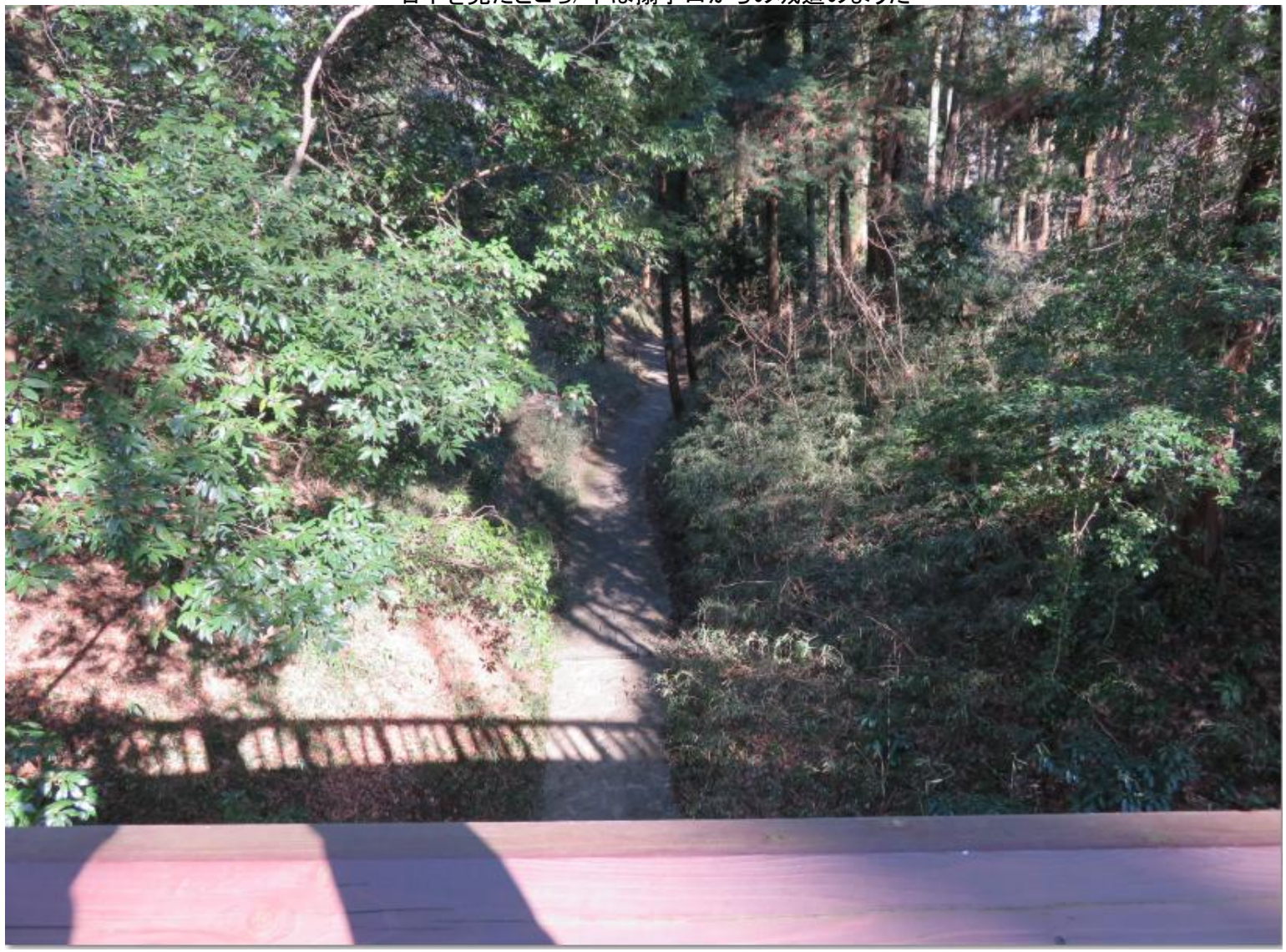
木橋の下の城道から木橋を見上げたところ

木橋を渡って本丸跡へ進もう

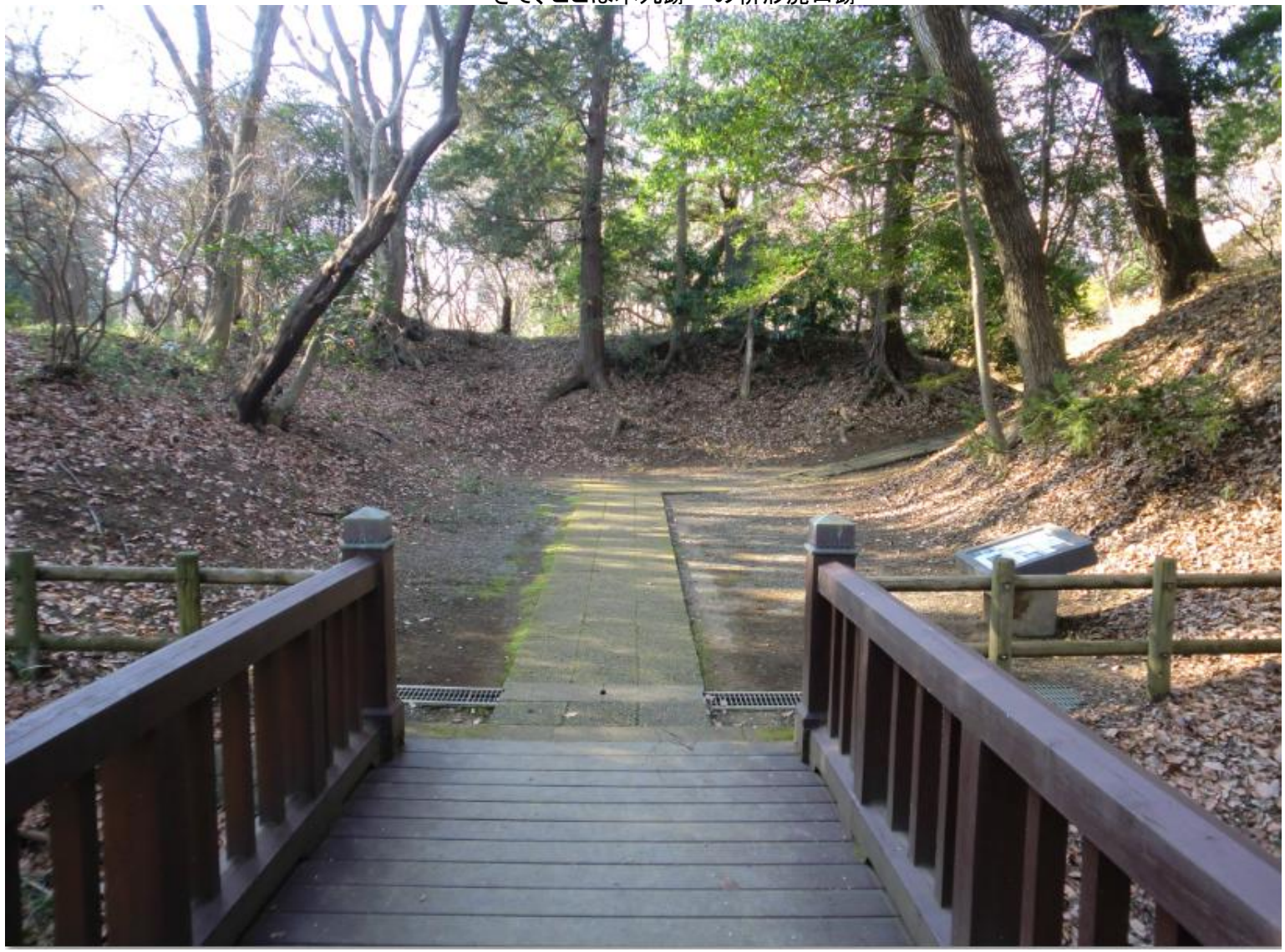
左下を見たところ/腰曲輪跡が見える



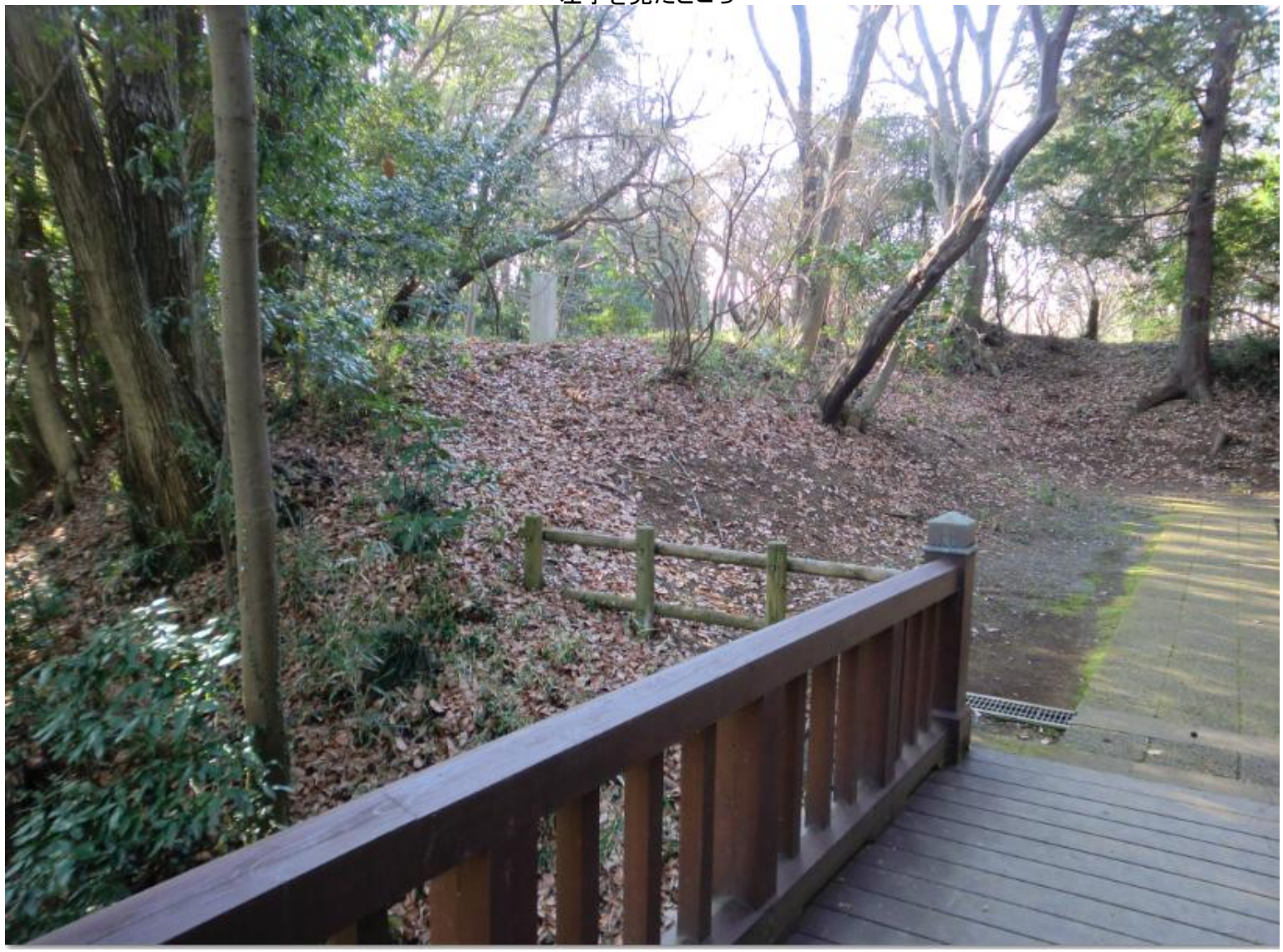
右下を見たところ/下は搦手口からの城道のようだ



さて、ここは本丸跡への枡形虎口跡

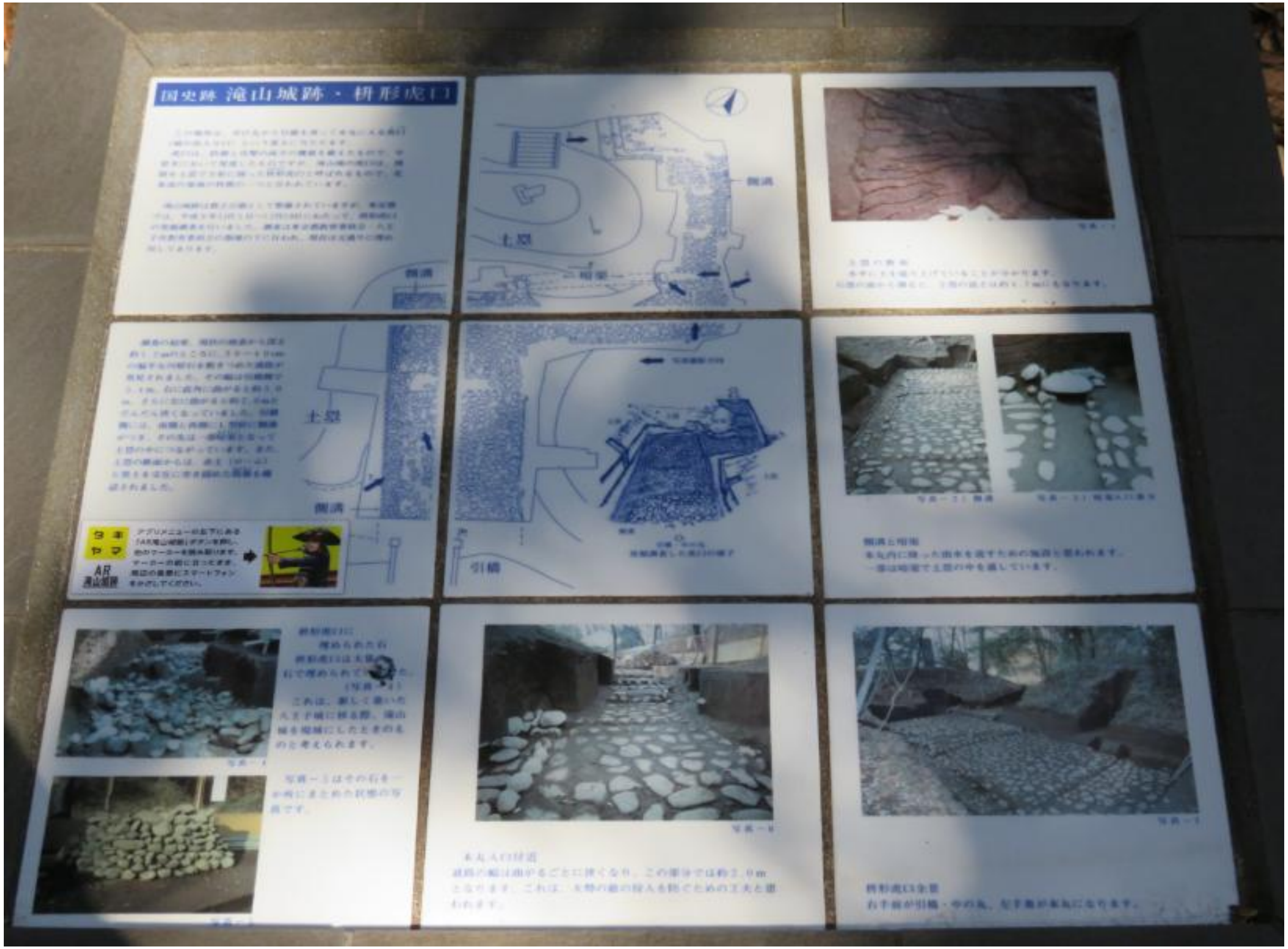


左手を見たところ



右手を見たところ

向こうが本丸跡


国史跡 滝山城跡・枡形虎口
土塁
側溝
暗渠
引橋
AR
滝山城跡

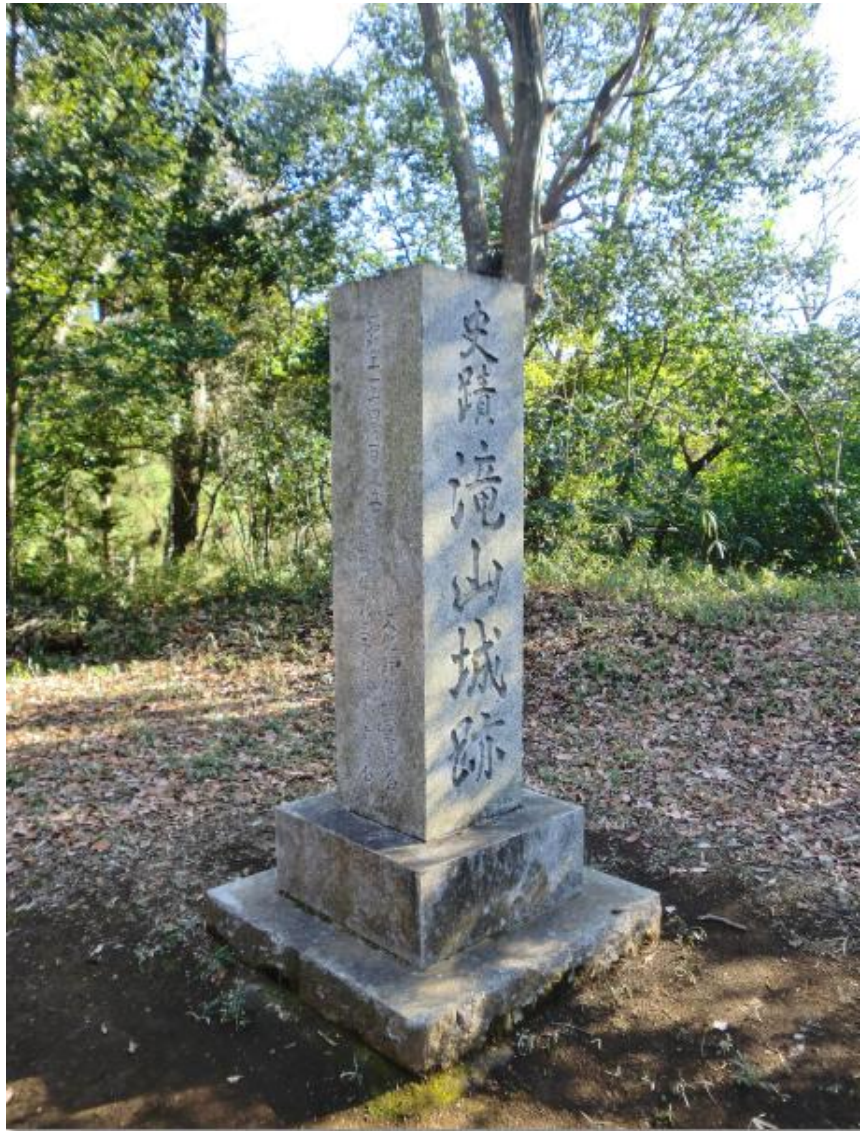
ここが本丸跡/東側から西方向を見たところ

これは南側から北方向を見たところ/北側は一段上がっている

これは井戸跡のようだ

東側に標柱が立っている

瀧山城本丸址の碑


史蹟 瀧山城跡

そこから北方向を見たところ/一段上がったエリアには社殿が建っている

これは西側から東方向を見たところ/前方に枡形虎口跡がある

これは北西側にある石碑

その左脇にある上の段への虎口跡

こんな具合

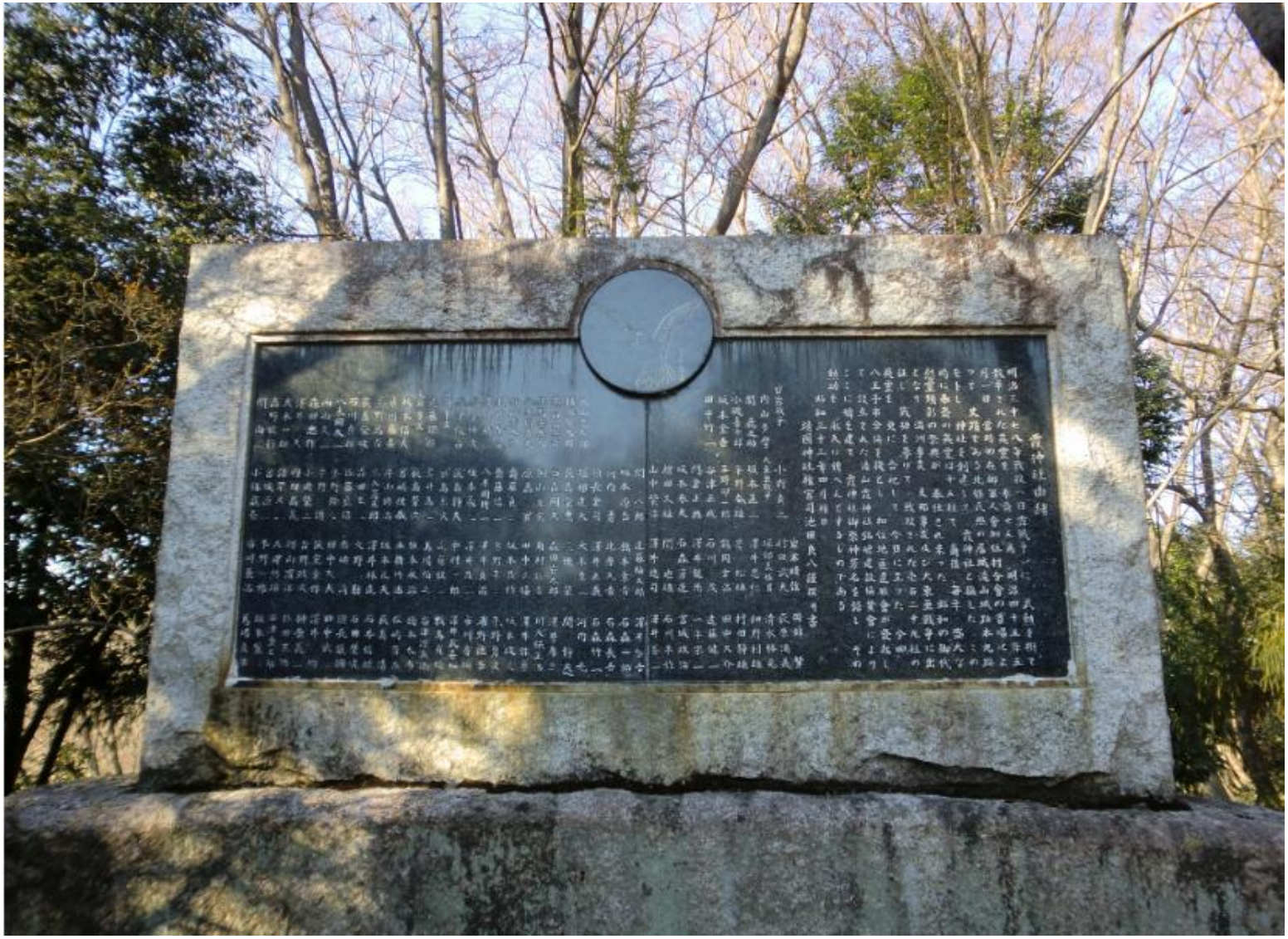
少し進んでから振り返って見たところ

上の段への虎口跡から本丸跡を見たところ

これが上の段にある社殿

霞神社とある

脇にはさまざまな石碑が立っている



霞神社由緒
明治三十七八年戦役（日露戦争）に　武勲を樹て
散華された英霊を奉斎せん爲　明治四十五年五
月一日　當時の在郷軍人會加住村分會の首唱によ
って　史蹟である北條氏照の居城滝山城趾本丸跡
をトし　神社を創建して　霞神社と稱した　この
時に奉斎の英霊は十五柱で　爾後毎年　盛大な
慰霊顕彰の祭典が　奉仕されて来った　昭和の御代
となり　満洲事変　支那事変及び大東亜戦争に出
征し　戦功を擧げて　戦歿された壱百二十九柱の
英霊を　更に合祀して　今日に至った　今回
八王子市合併を機として　加住地區遺族會が發起し
て　設立された滝山霞神社銘碑建設協賛會により
ここに碑を建てて霞神社御祭神芳名を録し　その
勲功を　永久に傳へんとするものである
昭和三十三年四月祥日
靖國神社権宮司池田良八謹撰并書

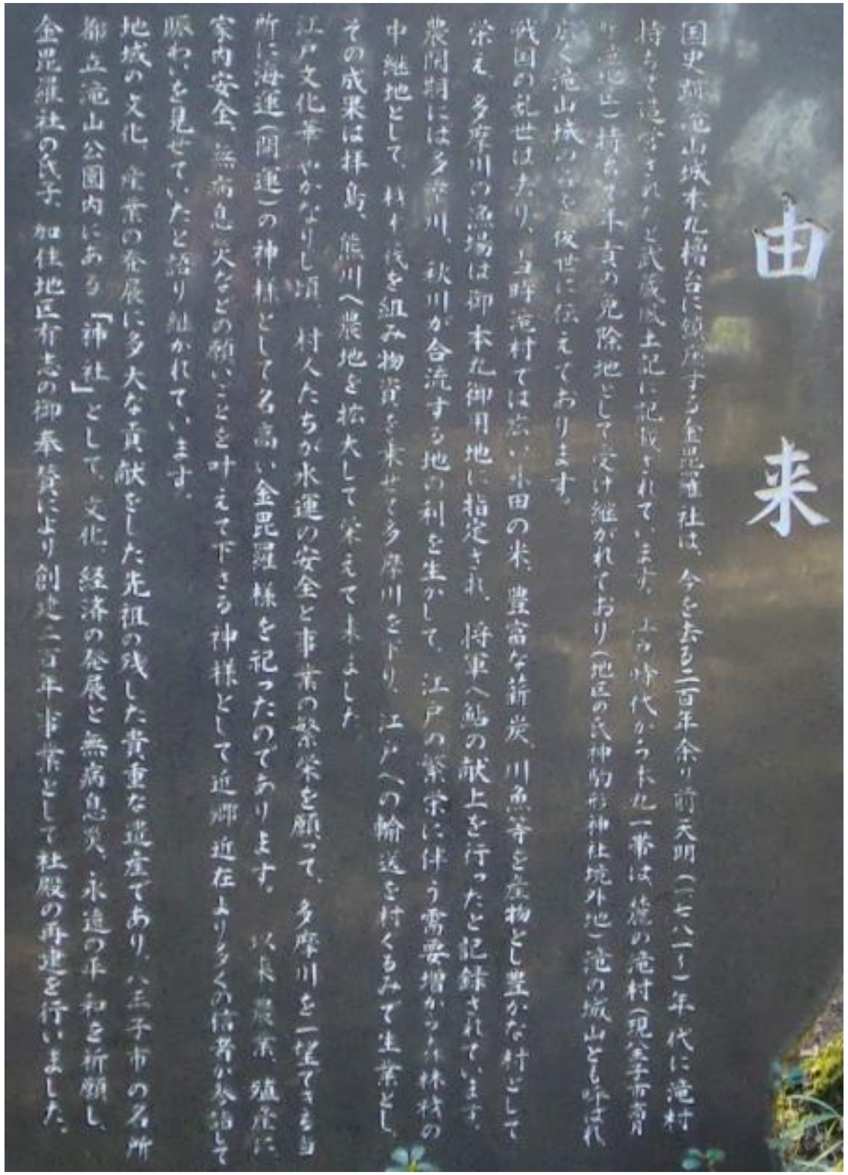
霞神社の奥にも社殿が見える

上の段を南側から北方向に見たところ

これが霞神社の奥にある社殿

これは金毘羅社

金毘羅社
再建之碑
由来
金毘羅社再建委員会

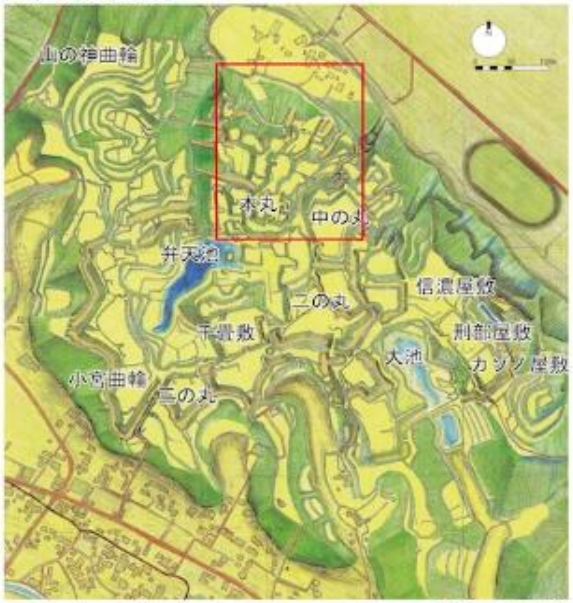

由来
国史跡滝山城本丸櫓台に鎮座する金毘羅社は、今を去る二百年余り前天明（一七八一～）年代に滝村
持ちで造営されたと武蔵風土記に記載されています。江戸時代から本丸一帯は、旧の滝村（現八王子市高月
町地区）持ちで年貢の免除地として受け継がれており（地区の氏神駒形神社境外地）滝の城山とも呼ばれ
広く滝山城の名を後世に伝えております。
戦国の乱世は去り、当時滝村では広い水田の米、豊富な薪炭、川魚等を産物とし豊かな村として
栄え、多摩川の漁場は御本丸御用地に指定され、将軍へ鮎の献上を行ったと記録されています。
農閑期には多摩川、秋川が合流する地の利を生かして、江戸の繁栄に伴う需要増から林材の
中継地として、材木筏を組み物資を乗せて多摩川を下り、江戸への輸送を村ぐるみで生業とし、
その成果は拝島、熊川へ農地を拡大して栄えて来ました
江戸文化華やかなりし頃、村人たちが水運の安全と事業の繁栄を願って、多摩川を一望できる当
所に海運（開運）の神様として名高い金毘羅様を祀ったのであります。以来農業、殖産に
家内安全、無病息災などの願いごとを叶えて下さる神様として近郷近在より多くの信者が参詣して
賑わいを見せていたと語り継がれています。
地域の文化、産業の発展に多大な貢献をした先祖の残した貴重な遺産であり、八王子市の名所
都立滝山公園内にある「神社」として、文化、経済の発展と無病息災、永遠の平和を祈願し、
金毘羅社の氏子 加住地区有志の御奉賛により創建二百年事業として社殿の再建を行いました。

これは本丸跡の上の段の北側で北方向を見たところ/説明坂がある

滝集落から本丸への侵入路

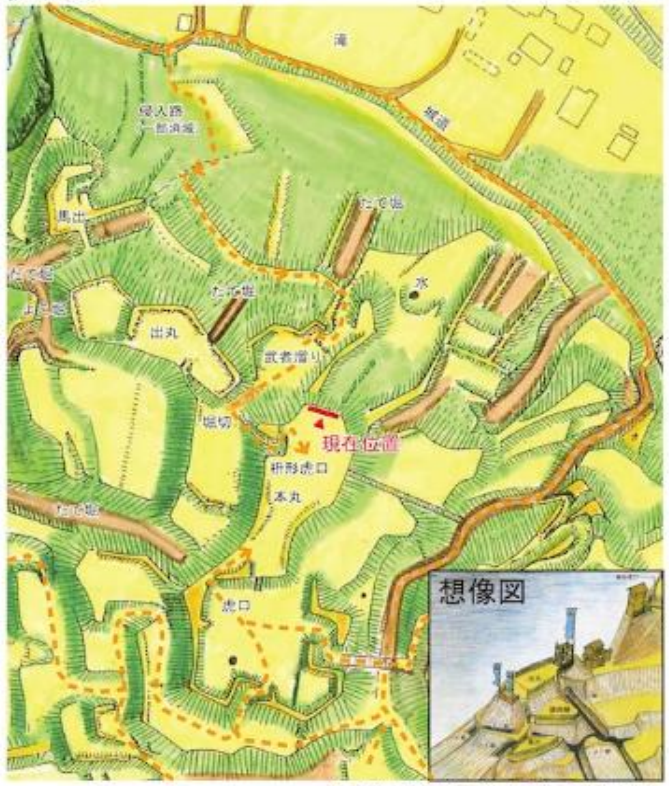
（搦手口からの侵入路）

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

本丸北西側の枡形虎口(出入口)は滝集落からの侵入路を抑えている。この侵入路を防御するため、出丸と本丸から挟み打ちできるように工夫している。(二方向から敵を挟んで攻める)

出丸の先端部分には馬出を備え、縦横の堀と共に強力な防御態勢を整えていたと思われる。

滝
侵入路
（一部消滅）
城道
馬出
たて堀
たて堀
よこ堀
たて堀
水
出丸
武者溜り

堀切
現在位置
枡形虎口
本丸
たて堀
虎口
想像図

多摩川が見える/天然の要害だ

これは本丸跡の上の段を北側から南方向に見たところ

ここが本丸北西側の枡形虎口跡

こんな具合/前方に平場があるが腰曲輪跡かもしれない

こんな感じ

その右手を見ると前方に出丸跡が見える

正面のマウンドの上が出丸跡/右手には堀跡が見える

これがその堀跡/左手が出丸跡/右手は本丸跡

その先には武者溜り跡がある

こんな具合

さて、出丸跡に登ってみよう

これは出丸跡に登って南側から北方向を見たところ/前方には土塁がある

こんな具合

この部分は竪堀跡

竪堀はこんな具合に斜面を下っていく

これは出丸跡を東側から西方向に見たところ/右手に土塁が見える

そこで振り返ると堀跡の向こうに本丸跡にあった金毘羅社の社殿が見える

これは出丸跡を西側から東方向に見たところ

振り返って西方向を見たところ/下にも平場があるようだ

さて、出丸跡を下りて右手に出丸跡を廻り込むように進んでみよう/正面も腰曲輪跡のようだ

堀跡のような感じになっている/右手は出丸跡の切岸

右手に廻り込んだところ/横堀のようだ/右手は出丸跡の切岸

そこで左手を見たところ

竪堀のようだ

また少し進んだ左手にも竪堀がある

ここは出丸跡の北西側に進んで出丸跡の切岸を見たところ

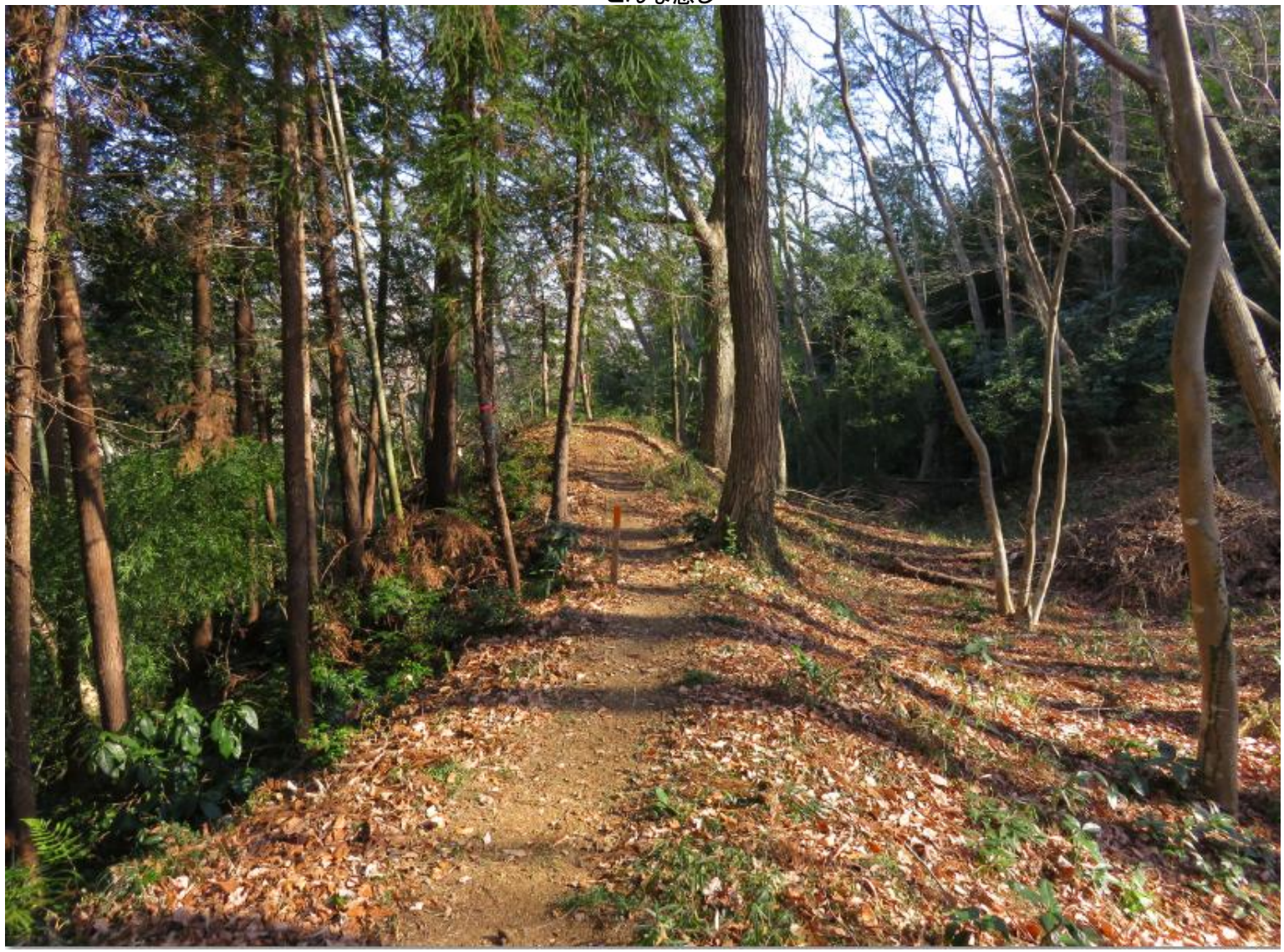
振り返るとここは馬出跡のエリア

こんな平場になっている

出丸跡の切岸上から正面にその馬出跡のエリアを見下ろしたところ

その右手方向には城道と堀跡が続いている

こんな感じ



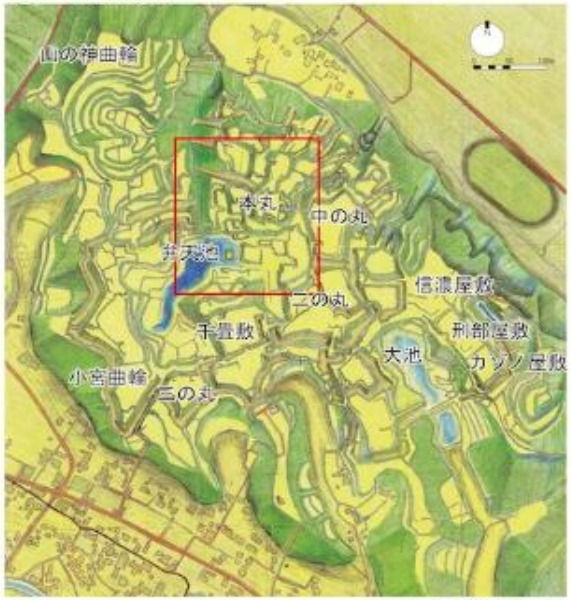
さて、本丸跡に戻って南側にある枡形虎口跡を見てみよう/本丸跡から南方向を見たところ

枡形虎口跡を抜けて振り返って見たところ/説明坂がある

本丸南側枡形虎口（ほんまるみなみがわますがたこぐち）

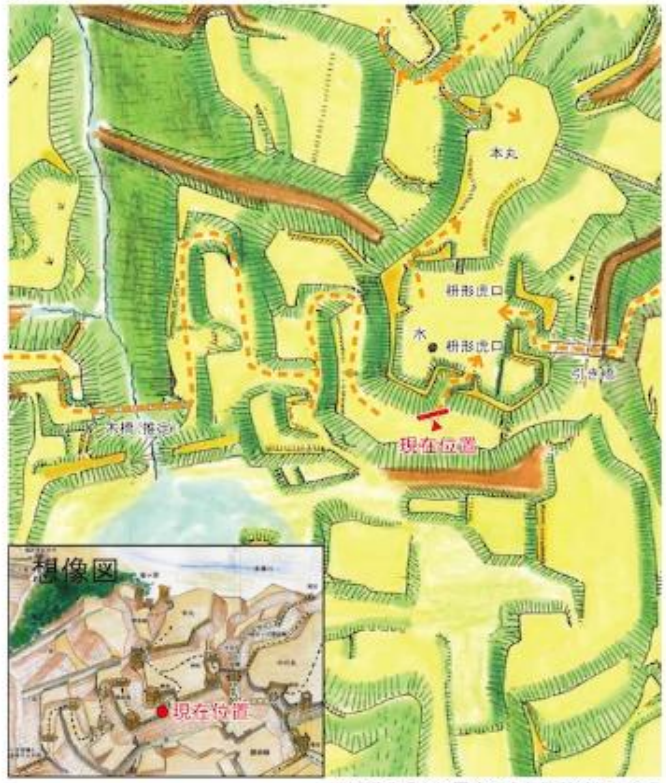
（小宮曲輪からの城道）

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

本丸の主たる出入口は二ヶ所ある。一ヶ所は中の丸から引き橋を渡って入る虎口（こぐち）。もう一ヶ所は南側に設けられている。

枡形は敵の直進を防ぐための工夫である。もし敵がこの虎口に侵入すると、体の左側に城兵の攻撃を受けることになる。現在でも枡形が大変よく残っている城郭遺構である。

本丸
枡形虎口
水
枡形虎口
引き橋

木橋（推定）
現在位置
想像図
現在位置

さて、本丸跡の南側にある枡形虎口跡から東方向に下りると中の丸跡と本丸跡に架かる木橋の下に出る

振り返ると下に先に見た腰曲輪跡が見える

本丸（ほんまる）への木橋（きばし）

（最終的な砦へ導く橋）

滝山城縄張図

作図：中田正光

拡大図

※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

当時の木橋はもう少し下に架けられていた。おそらく、中の丸に敵が押し寄せてきたら本丸へ半分程度引き込むことができたと思われる。

人工的に掘られた大堀切の上に架けられており、本丸が最終的な砦となっていた様子がわかる。

「大堀切」はもっと深かったことが試掘によって確認されている。

腰曲輪
堀切
枡形虎口
本丸
水
引き橋
枡形虎口
現在位置
中の丸
堀底

堀
枡形虎口
堀

この城道は「大堀切」だったという

それではここで、この先にあるこの城道の入口である搦手口を見てみよう

これは多摩川の土手から南方向に滝山城跡を見たところ/正面辺りが本丸跡のエリアか

その左手を見たところ

右手を見たところ/高月城跡はこの方向の1.5km先にあるという

さて、この道路の先から搦手口を進んでみよう

前方を左手に折れて進んでいく

左手を見たところ/切岸となっている

このような土塁状の地形が続く

搦手口の右手はこのような竪堀状のところが何ヶ所か見られる

この谷は山の神曲輪跡の辺りへ繋がるのか

ここも覗いてみよう

小祠があり急な斜面となっている

ここも竪堀跡なのか

搦手口の城道はこの先で右手に折れている

こんな感じ

城道は右、左と折れながら登っていく

左手は中の丸腰曲輪跡の切岸

右手のこの階段を登ると本丸跡の金毘羅社の社殿へ至る

前方に中の丸跡と本丸跡に架かる木橋が見えてきた

左手が中の丸跡、右手が本丸跡

さて、今度は「東馬出」から信濃屋敷跡方面に城道を進もう

正面の木々の中が信濃屋敷跡

ここが信濃屋敷跡/南側から北方向に見たところ

振り返って南方向を見ると仕切り土塁状の向こうに平場が見える/こちらが刑部屋敷跡のようだ

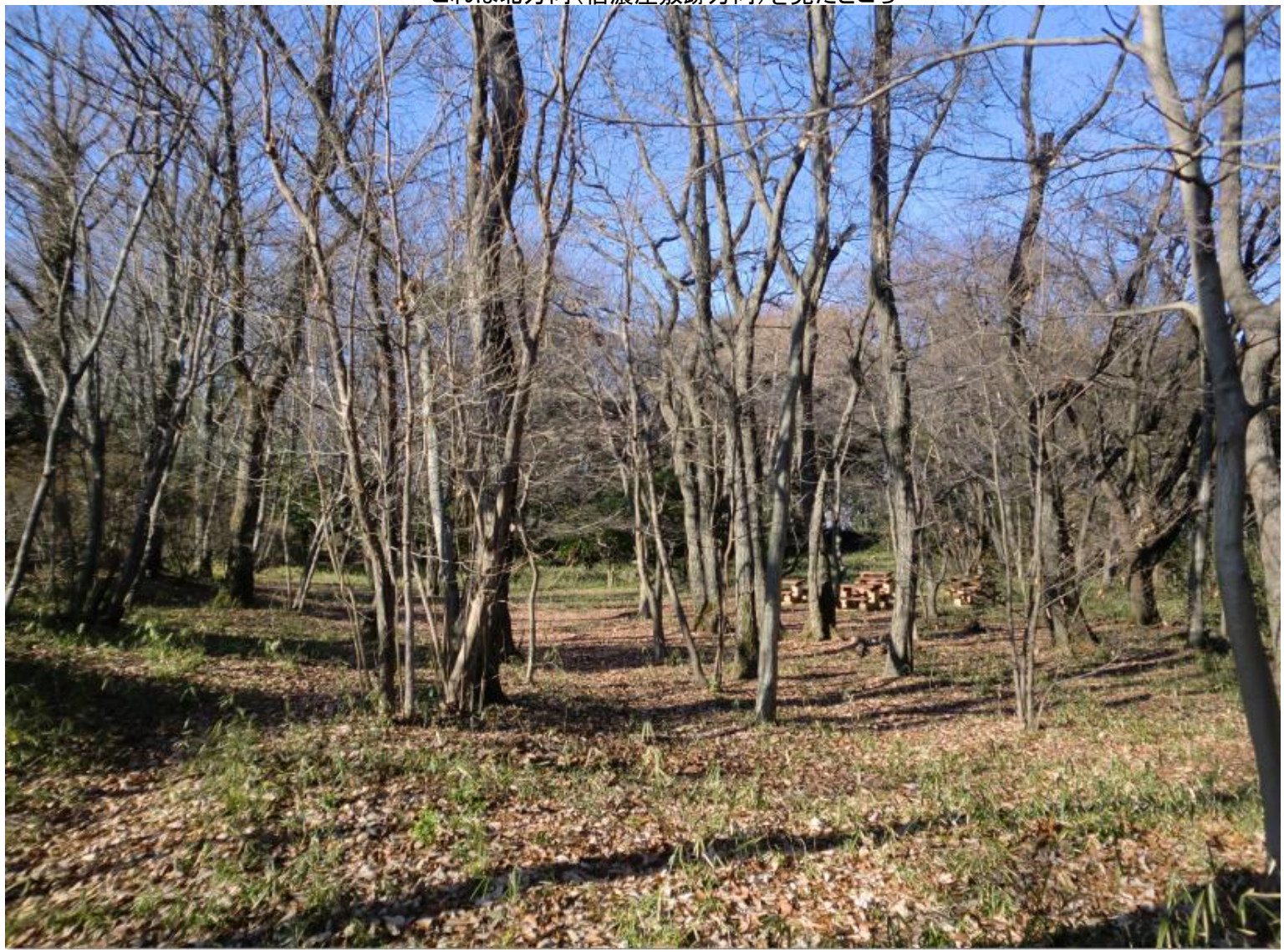
先程の城道を更に刑部屋敷跡方向に進む

左手に説明坂がある

かたらいの路
～滝山コース～
金比羅社
↑至 東秋川橋
To Higashi-Akigawa Bridge
霞神社
引橋
中の丸跡
本丸跡
信濃屋敷跡
刑部屋敷跡
至 小峯ケ原園地→
To Kobugahara Garden
現在地
You are here
二の丸跡
馬出し跡
池跡
千畳敷跡
小宮曲輪跡
三の丸跡
御嶽神社
かたらいの路
園路
史跡説明板
トイレ
身障者用トイレ
バス停
東京都多摩環境事務所
TEL. 042-523-3171
166
滝山城址下
411
滝山街道（国道411号）
丹木二丁目
丹木一丁目

ここが先程見えた刑部屋敷跡/西側から東方向に見たところ

これは北方向（信濃屋敷跡方向）を見たところ



これは反対に南方向を見たところ/この刑部屋敷跡の向こうにはカゾノ屋敷跡（前方の仕切り土塁状の向こう）が続いているようだ

ここがカゾノ屋敷跡/北側から南方向を見たところ

その南側には土塁がある/この向こうは堀跡になっている

さて、先程の城道をカゾノ屋敷跡の南方向へ進むと木橋が架かっている/この城道は「古峰の道」で城下に続いているようだ

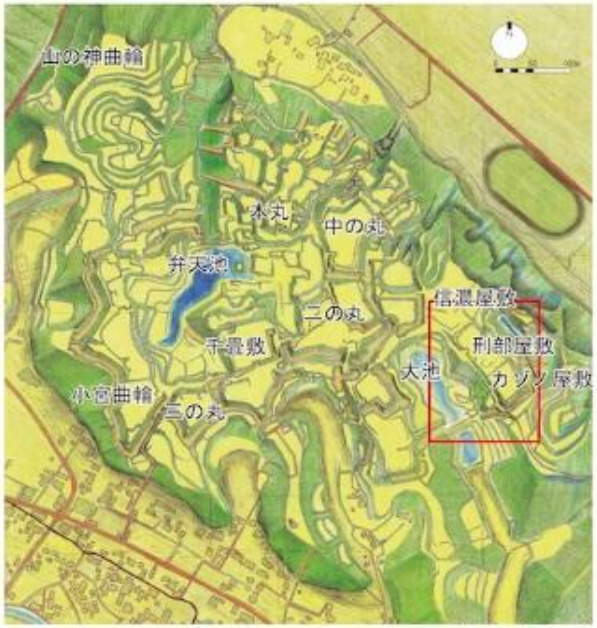
木橋で左手を見ると先程のカゾノ屋敷跡の土塁の先にある堀跡が見える/左手がカゾノ屋敷跡

これは木橋を渡って振り返って見たところ/右手前方がカゾノ屋敷跡/手前に説明坂がある

木橋（きばし）

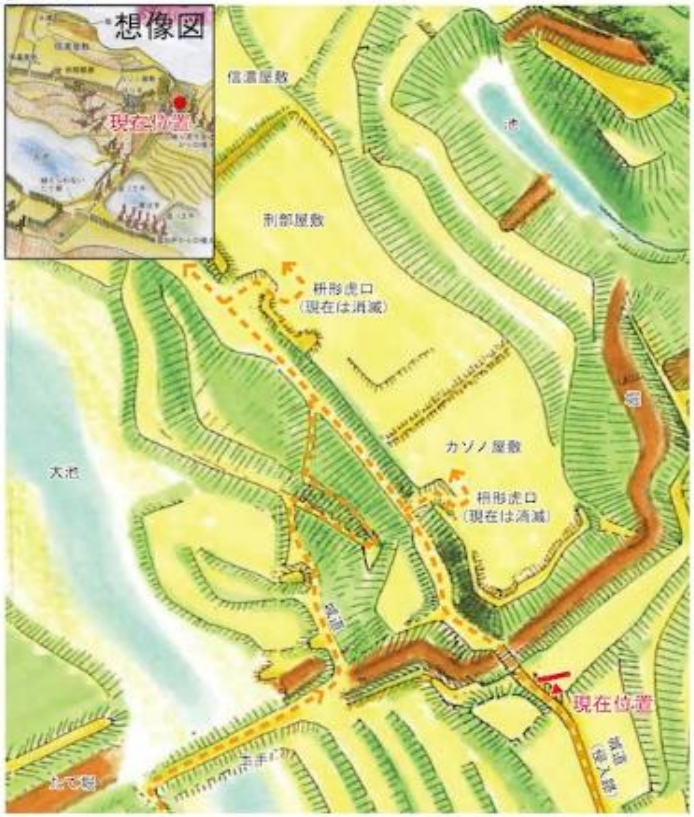
（引き橋）

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

唯一尾根続きのこの場所は、滝山城の弱点であったと考えられる。そのため、防御は厳重を要した。

この橋は「引き橋」だったと思われる。橋の下の堀は大池の土手とつながり、一大防御線を考えた縄張（城の設計）になっていた。

想像図
現在位置
信濃屋敷
池
刑部屋敷
枡形虎口
(現在は消滅)
堀

カゾノ屋敷
大池
枡形虎口
（現在は消滅）
現在位置
たて堀

左手を見たところ/この下には大池があるようだ

さて、最後に小宮曲輪跡から山の神曲輪跡へと進んでみよう/ここは小宮曲輪跡の枡形虎口跡があるところ

小宮曲輪跡を北方向に進む

右手は急峻な崖状となっており、その下は千畳敷跡下にある弁天池跡に繋がるようだ

この辺りも小宮曲輪のエリアで仕切り土塁状に何ヶ所かの平場に仕切られているようだ

こんな具合

さて、更に北方向に進もう

この先は左手に折れて下っている

こんな具合

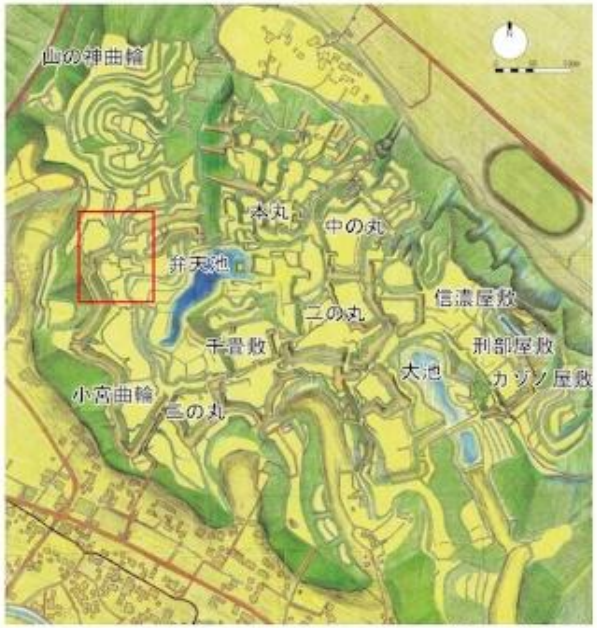
前方に説明坂がある

坂を下って振り返って説明坂を見たところ/後のマウンドは櫓台跡のようだ/右手は堀跡で小宮曲輪跡を取り巻く堀跡に続くようだ

小宮曲輪枡形虎口（ぐるわますがたこぐち）

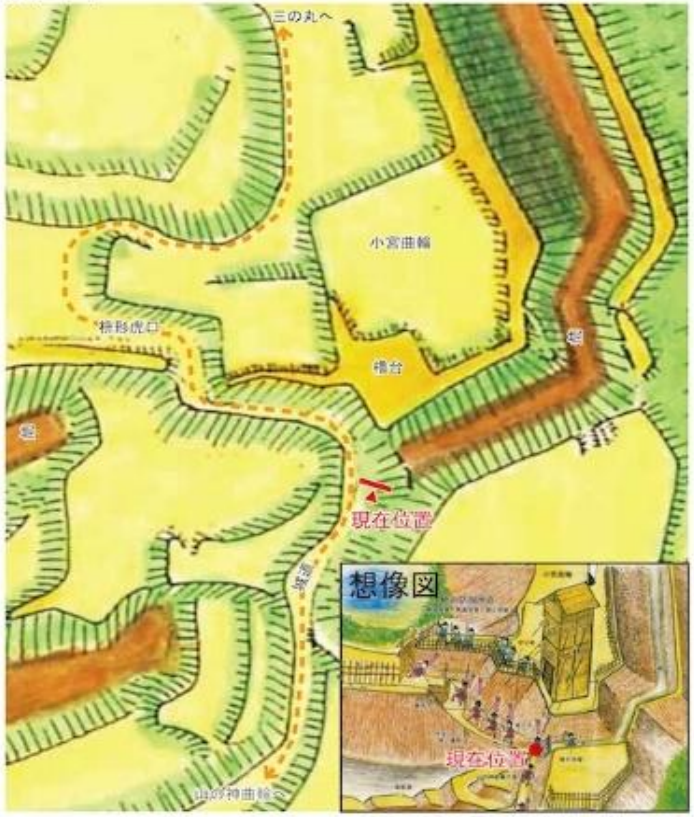
（北の備え）

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図

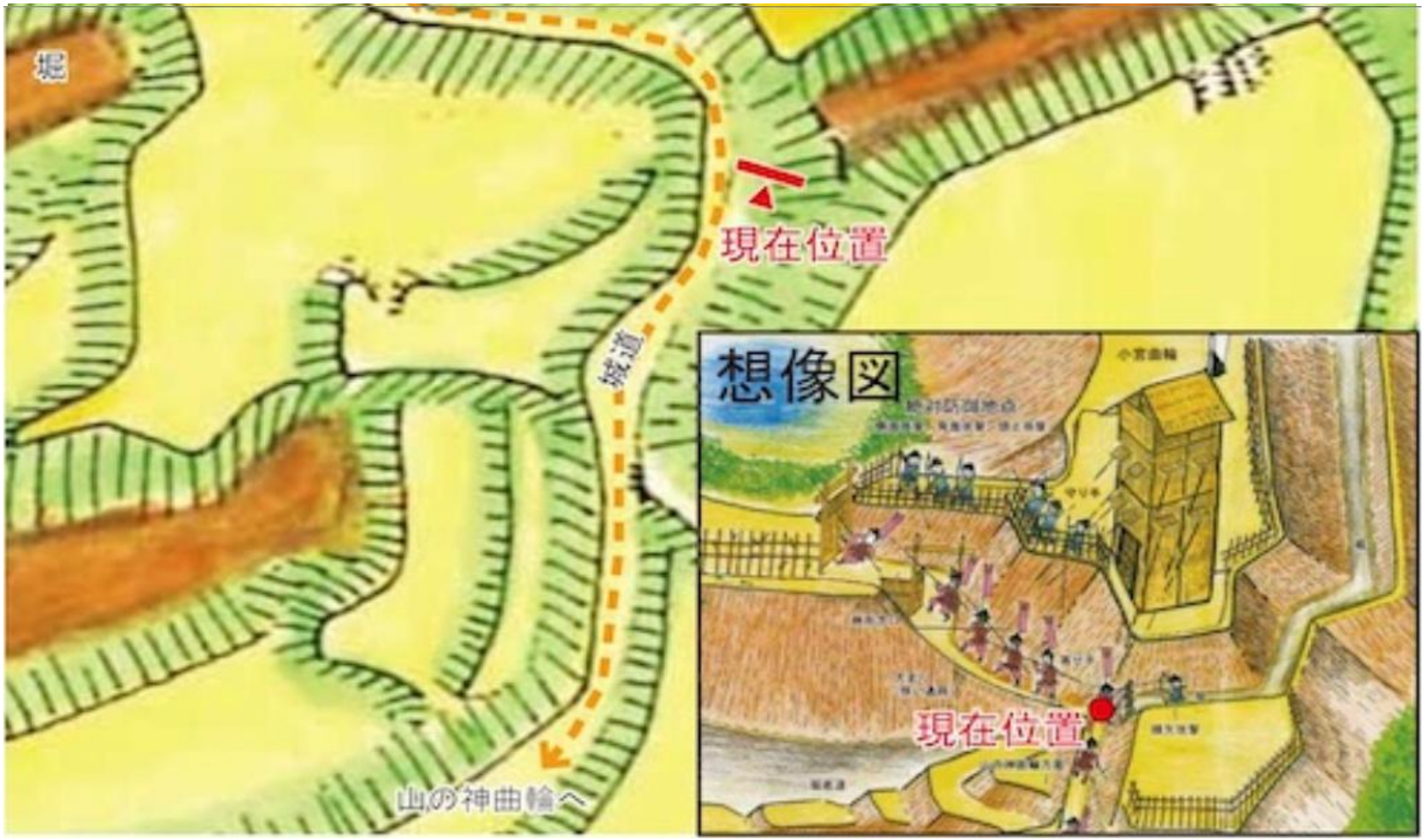


※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

山の神曲輪方面から小宮曲輪へと攻め進むには、枡形虎口（出入口）を通過しなければならない。敵は狭い通路で一列縦帯にならざるを得ない。それに対して城兵は、敵の頭上や側面から弓矢、槍、鉄砲で攻撃をする。敵にとってはてごわい場所に攻め入ることになる。

三の丸へ
小宮曲輪
枡形虎口
櫓台
堀


堀
現在位置
道路
山の神曲輪へ
想像図
現在位置

今下ってきた坂を見上げたところ

ここは枡形虎口跡であったようだ

これはその先の坂を登り切ったところで、ここが枡形であったようだ

ところでこれは右手に見えた堀跡で、この先は山の神曲輪跡を見た後で行ってみよう

振り返るとこちらは弁天池跡方向へ急激に下っている

さて、山の神曲輪跡方向へと更に北方向に進もう

ひたすら北方向へ進む

冬場でもこんな具合

前方に山の神曲輪跡のエリアが見えてきた

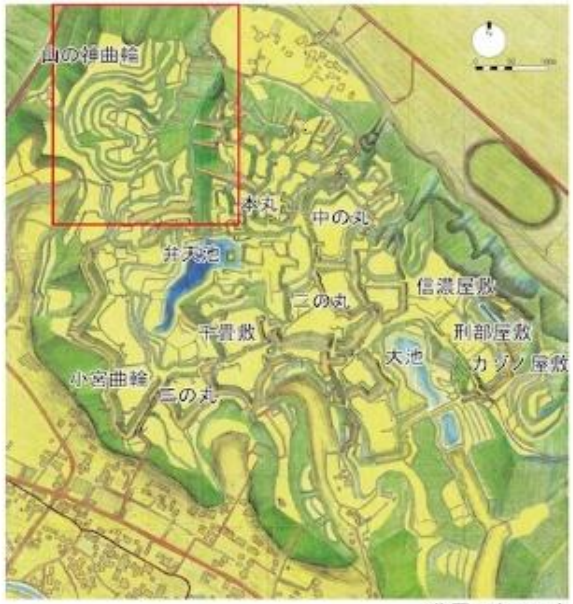
ここが山の神曲輪跡

北側に案内板がある

山の神曲輪（ぐるわ）

（民衆の避難場所と推定される）

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図

※城道は現在の園路と違う箇所があります。

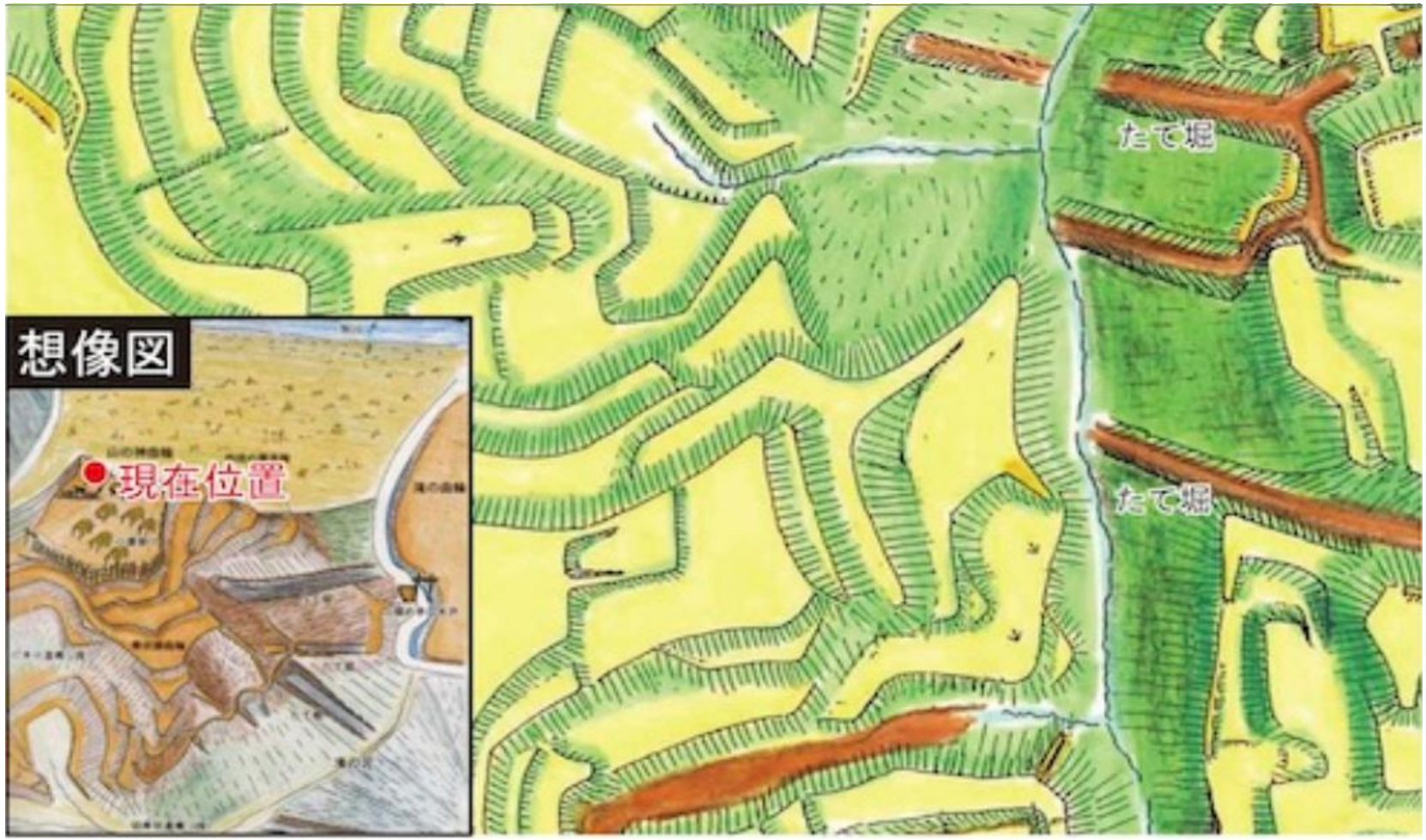
解説

「山の神」とは全国各地に残る民間信仰で、農耕の神である。春は里に下り、秋の収穫を見守ると再び山に戻ってくる。

この山の神を祀る山の神曲輪は、城下や周辺村々の民衆たちを、敵の乱取り（放火や略奪）から守るために設けた避難場所だったと考えられる。

永禄十二年（1569年）、城周辺の村々は武田軍（武田信玄）によって焼き払われた。このとき、一般の民衆は領主の城（滝山城）へ避難していたと思われる。

現在位置
山の神曲輪
滝の曲輪
たて堀
帯状腰曲輪

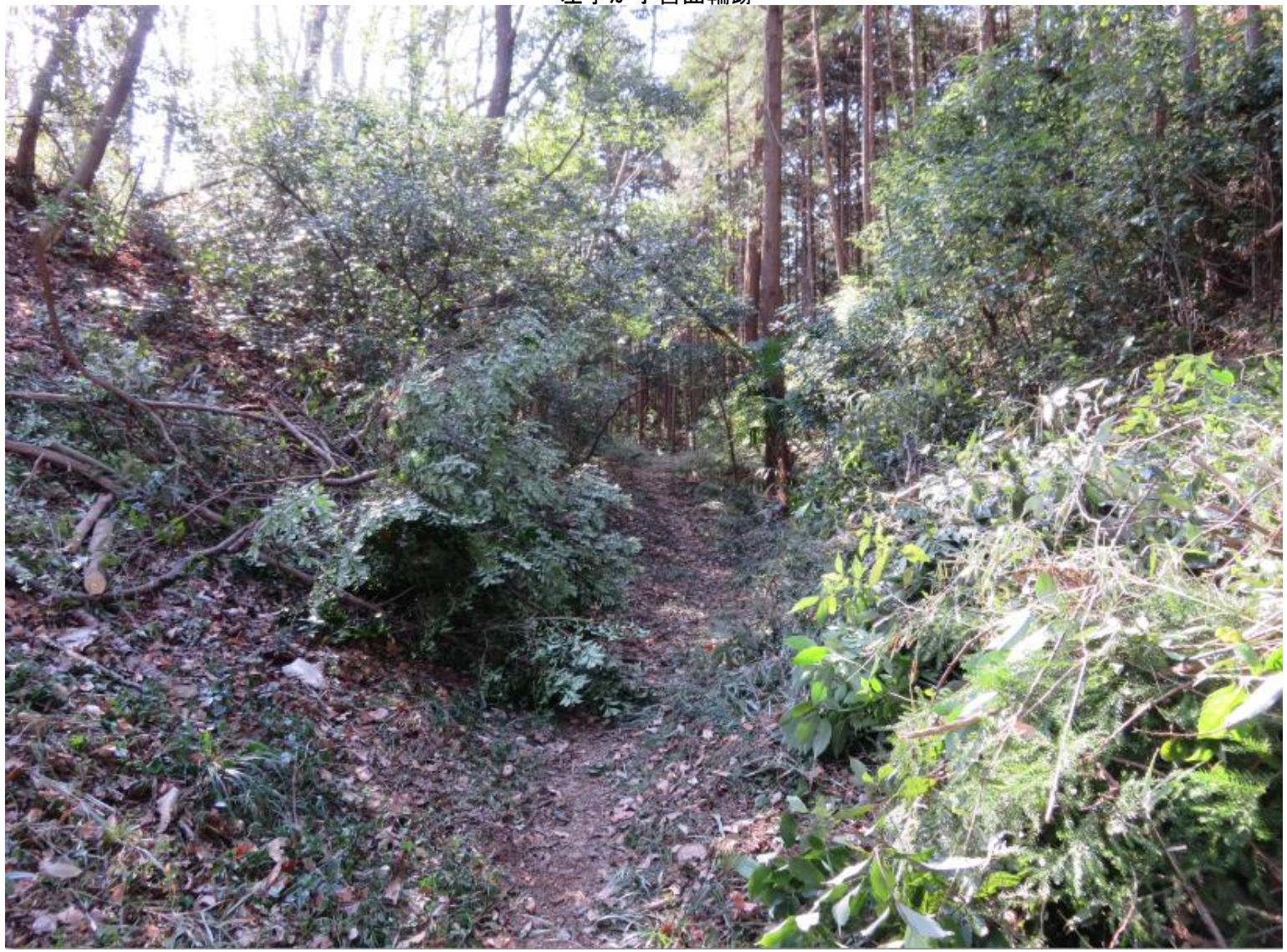

想像図
現在位置
たて堀
たて堀

多摩川が見える

振り返って北側から南方向に見たところ

さて、先程の小宮曲輪跡の櫓台下の堀跡を進んでみよう

左手が小宮曲輪跡



その先で左手の一段深い堀跡に続いている

その一段深い堀底に下りて南方向を見たところ/左手が小宮曲輪跡

その先はこんな感じで左手の小宮曲輪跡を取り巻いている

左手の小宮曲輪跡を見上げたところ

こんな堀底を進む

これは途中にある堀跡を渡る小宮曲輪跡への土橋/前方が小宮曲輪跡

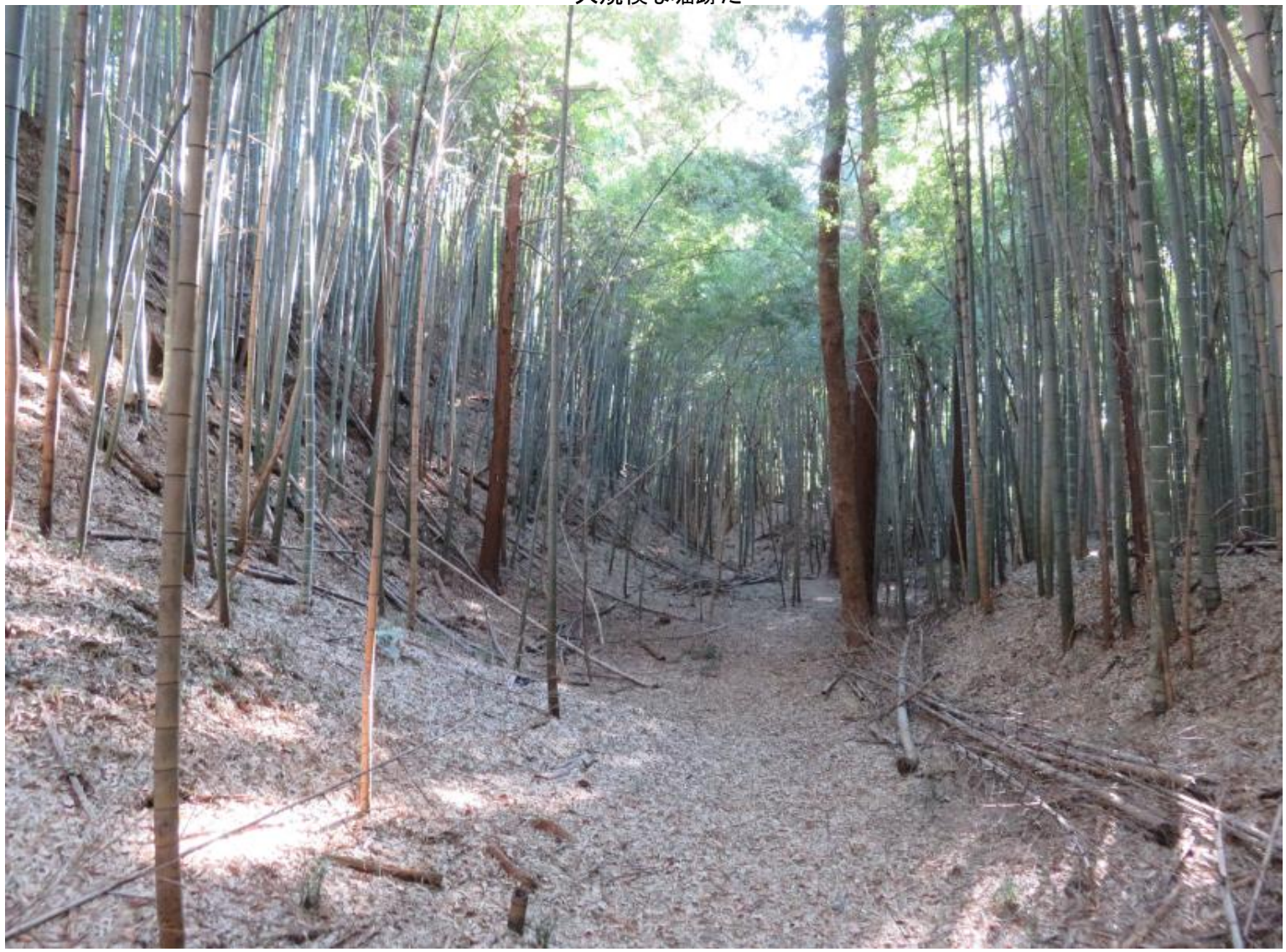
これはその土橋上から更に南方向に堀跡を見たところ

その堀底に下りたところ/左手が小宮曲輪跡/右手は土塁

振り返って土橋を見たところ/右手が小宮曲輪跡

更に堀底を南方向に進んでみよう/左手が小宮曲輪跡/右手は土塁

大規模な堀跡だ



左手の小宮曲輪跡を見上げたところ

左右に折れながら続いている

こんな具合

前方に最初に登ってきた天野坂が見える

さて、天野坂を下って帰路に就くことにする

大変見応えのある城跡であった

参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/001tokyo/015takiyama/takiyama.html

http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Tokyo/Takiyama/

http://yogokun.my.coocan.jp/tokyo/hatioujisi.htm

http://www.pasonisan.com/rvw_trip/14-04takiyamajou.html

http://tkonish2.blog.fc2.com/blog-entry-152.html

http://jp-castles.cocolog-nifty.com/blog/2013/05/post-45b3.html

東秋川橋
雨間
切欠
戸吹町
中央霊園
杏林大
高月病院
常福寺
加住中
高月町
高月浄水所
高月配水池
乗泉寺霊園
武蔵野ゴルフクラブ
高尾街道
宮下町
丹木町三
丹木町
加住町
谷野町
川口図書館
八王子北
コピオ楢原
工学院大
老人ホー
多摩筆
創価大
創価女子短大
梅坪町
東京純心女子大
八王子市
西武リネンサプライ
拝島町
滝山町
丸山町
左入町
八王子滝山
谷地川
久保山公園
久保山町
平町
多摩川
大神公園
大神町
宮沢
田中町
自然公園
拝島町
昭島市
昭島市役所
上川原町
宮沢町
中神町
清泉中
昭島警察署
昭和町
青梅線
昭島
松原町
緑町
小荷田
市民図書館分館
市民図書館分室
啓明学園高
堂方上
熊川
エコス
MOVIX昭島
ゴルフ5
小宮小
Japan,(C)ZENRIN
(C)Yahoo Japan